

研修医の声

迷いながらも、一歩ずつ

長岡中央総合病院

小 柳 慧 司

はじめまして、研修医2年目の小柳慧司と申します。今回、「研修医の声」として原稿を書く機会をいただき、この1年間を振り返ってみたいと思います。

医師としての道を歩み始めてから、あっという間に1年が経過しました。初めて救急外来に立った時の緊張感は今でも鮮明に覚えています。

初期研修を開始してからの1年間、私は多くの貴重な経験を積むことができました。長岡中央総合病院では、救急から慢性疾患まで幅広い症例に触れ、実践的なスキルを身につける機会に恵まれました。特に、日当直での救急対応は研修医の主な仕事の一つであり、緊張の連続ですが、経験した一つ一つの症例が自分にとって学びとなり、少しずつ医師としての土台を築く礎となっていると感じています。

指導医の先生方は、常に温かく丁寧に指導してくださり、どんな些細な疑問にも真摯に向き合ってくださいました。その姿勢に支えられ、日々の研修に励むことができました。また、研修医室では、先輩医師や同期との距離が近く、気軽に相談や意見交換ができる環境が整っていました。このような風通しの良い雰囲気の中で、仲間と切磋琢磨しながら研修できたことは、私にとって大きな財産です。

現在、2年目を迎え、今後の進路について真剣に考える時期に差し掛かっています。内科、外科、総合診療など、どの分野にも魅力を感じる一方で、自分に最も適した道が何かを見極めることの難しさを痛感しています。不安や迷いを抱えつつも、最終的には自分の直感を信じて、一歩踏み出す勇氣が必要だと感じています。

残りの1年間は、自分の可能性を広げるために、

さらに積極的に様々なことに挑戦したいと考えています。新たな分野の研修や学会への参加、地域医療への関与など、多方面にわたる経験を積むことで、自分の適性や興味をより深く理解し、将来の方向性を明確にしていきたいと思います。

これまで支えてくださった指導医の先生方、共に励まし合ってきた同期の仲間たち、そして患者さん一人ひとりに心から感謝申し上げます。すべての支えのおかげで、私は医師としての第一歩を踏み出すことができました。今後も初心を忘れず、医師としての成長を続けていけるよう、謙虚な姿勢で学び重ねていきたいと思っています。



長岡市福島江の桜